

地域再生計画

- 1 地域再生計画の名称
歴史・伝統と地域の資源を生かした観光・交流まちづくり振興計画
- 2 地域再生計画の作成主体の名称
福島県、二本松市、安達郡安達町、安達郡岩代町、安達郡東和町
- 3 地域再生計画の区域
二本松市並びに福島県安達郡安達町、岩代町及び東和町の全域

4 地域再生計画の目標

二本松市、安達町、岩代町及び東和町は、福島県の中通り地方の北部地域に位置し奥羽山脈と阿武隈高地に囲まれ、中央部を阿武隈川が流れ、流域沿いは沖積層の肥沃な土壌を形成している一方、東西の山間部は、標高 300m ~ 500m の区域に耕地が散在しているものの、農林業を基幹産業とする農山村地域である。

なお、二本松市、安達町、岩代町及び東和町は、寛永 20 年(1643)から明治元年の 200 余年の間、丹羽二本松藩の領内であったことから、古くから歴史的なつながりがあり、多くの歴史・文化資源を共有しており、平成 17 年 12 月には新市として合併に向けて準備が進められている。

また、地域間のスムーズな結びつきや一体性の確保、地域特性を生かした活力ある産業の振興のため、同地域の中心地から全域 30 分圏内をめざす道路体系整備によるアクセス改善が強く求められている。

このため、地域の重要なインフラである市町道及び農道の効率的な整備を行うとともに、豊かな自然環境から育まれた農林業を中心とした地域資源及び多様で豊かな各観光拠点施設のネットワーク整備と誘客活動の強化を図り、観光交流客の大幅な入込増加を目指す。また、道の駅等の直売施設をより積極的に活用することにより、農林業、商業などの地域産業の活性化を図り、歴史・伝統と地域の資源を生かした観光・交流のまちづくりを行う。

- (目標 1) 道路、農道整備による沿線住民の市街地へのアクセス改善 (5 分短縮)
- (目標 2) 道路、農道整備による観光拠点への入込人数の増加 (現在入込人数 125,000 人の 10 % 増)
- (目標 3) 道路、農道整備による農産物直売額の増加 (年間 168,000 千円の 10 % 増)

5 目標を達成するために行う事業

(5 - 1) 全体の概要

二本松市と岩代町を結ぶ、「市道鈴石中央線」、「町道戸ノ内線」と「広域農道安達東部線」を集中的に整備することにより、基幹道路のネットワークの構築が図られ、観光拠点・交流拠点の連携が促進されることはもとより、農業振興・農産物の流通の効率化も図られる。

「町道与市ヶ作線、南戸沢線」が整備されることにより、羽山のリンゴや地産地消の推進の拠点である、農産物直売所を有する道の駅「ふくしま東和」あぶくま館へのアクセス改善が図られる。

「町道赤坂山～田尻線」が整備されることにより、東和町及び岩代町の交流拠点である道の駅「ふくしま東和」あぶくま館や農村交流館「さくらの郷」から国道4号線やJR安達駅へのアクセス改善が図られる。

市道鈴石中央線	【昭和62年3月19日認定】
町道戸ノ内線	【昭和62年1月21日認定】
町道与市ヶ作線	【昭和61年12月22日認定】
町道赤坂山～田尻線	【昭和61年12月19日認定】
町道南戸沢線	【昭和61年12月22日認定】
広域農道安達東部線	【平成12年2月16日事業計画確定】

(5-2) 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

「施設の種類(事業区域) 実施主体」

市町道(二本松市)	二本松市
(岩代町)	岩代町
(東和町)	東和町
(安達町)	安達町
広域農道(岩代町)	福島県

「事業期間」

- ・ 市町道 17年度～21年度
- ・ 広域農道 17年度～21年度

「整備量及び事業費」

- ・ 市町道 4.7km、広域農道 2.5km
- ・ 総事業費 25億8千8百万円 (うち交付金 12億9千4百万円)
- 市町道 13億2千8百万円 (うち交付金 6億6千4百万円)
- 広域農道 12億6千万円 (うち交付金 6億3千万円)

(5-3) その他の事業

観光交流拠点整備事業

観光と連携した地域産業の振興対策を推進するもので、道の駅等の整備充実、観光・交流拠点施設ネットワークの整備を図る。

6 計画期間

平成17年度から平成21年度まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、毎年度必要な調査を行い状況を把握・公表するとともに、関係行政機関と地元住民からなる本計画の検討会を開催し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行うこととする。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

農村交流館「さくらの郷」周辺の交流を促進するための施設間連絡道路を整備する中山間地域総合整備事業 いわしろ地区。